



同窓会だより

第53回全国歯科大学同窓・ 校友会懇話会報告

同窓会副会長 野村 修 一

日 時：平成18年11月18日(土)

午後2時～4時45分

場 所：ホテルブランドパレス

当番校：昭和大学歯学部

第53回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が、平成18年11月18日(土)に都心のホテルブランドパレスを会場に昭和大学歯学部同窓会の主催で開催された。多和田会長、成田専務理事と私の3名で出席した。

パネルディスカッション「歯科医師臨床研修必修化に伴う各大学の取り組みと問題点」では、まず、コーディネーターから各大学への事前のアンケートを集計した結果と問題提起があった。次いで、3名のパネラーから各大学での研修システムと必修化に向けての様々な取り組みなどについて講演が行われた。パネラーの発表内容がそれぞれの大学における研修システムに偏り、協力型施設にお



ける研修実態について殆ど取り上げられなかったことや、スライド撮影のトラブルで時間がなくなり、フロアからの質問と討議は盛り上がりを欠いた。

協議では、次々期当番校に北海道大学歯学部が選出された。その後、九州歯科大学、大阪歯科大学、朝日大学歯学部から平成19年度に開催予定の同窓会行事が紹介された。

また、次期当番校の九州大学から第54回を平成19年11月10日に、「歯科医療が国民にアピールできること」をテーマに開催予定である旨の挨拶があった。しかし、開催予定日が朝日大学の行事と重なるため、両校で調整することとなった。

引き続き行われた懇親会は、次の参議院選挙に立候補予定の「石井みどり」鶴見大学歯学部同窓会副会長が出席していたため、懇親の場というよりも選挙戦に向けての決起集会的な雰囲気であった。

会次第

1. 開会の辞

昭和大学歯学部同窓会 副会長 大多和 実

2. 当番校会長挨拶

昭和大学歯学部同窓会 会長 飯島 裕之

3. 出席者紹介

4. 来賓挨拶

日本歯科医師会 常務理事 小谷田 宏

東京都歯科医師会 副会長 渡邊 洋夫

日本歯科医師連盟 副会長 蒲生 洵

昭和大学 歯学部長 宮崎 隆

5. パネルディスカッションと討議

「歯科医師臨床研修必修化に伴う各大学の取り組みと問題点」

パネラー：新田 浩

東京医科歯科大学歯学部附属病院

歯科臨床研修センター 副センター長





パネラー：秋山 仁志
 日本歯科大学歯学部附属病院
 臨床研修プログラム責任者

パネラー：一戸 達也
 東京歯科大学
 臨床研修委員長

コーディネーター：長谷川篤司
 昭和大学歯科病院
 臨床研修プログラム責任者

6. 協議

議題

- (1) 次々期当番校選出
- (2) その他

7. 次期当番校挨拶

九州大学歯学部同窓会 会長 高島 昭博

8. 閉会の辞

昭和大学歯学部同窓会 副会長 大西 正利

2. 当番校挨拶

鹿児島大学歯学部同窓会

会長 松下 哲郎

3. 出席者紹介

4. 講演

演題：「小泉内閣医療制度改革工程表」

講師：東京社会保険事務局

藤木 敏 指導医療官

講演要旨

平成14年から始まった小泉医療制度改革は、1) 予防重視と医療の質の向上・効率化、2) 医療費適正化に向けた総合的な対策の推進、3) 都道府県単位を軸とする医療保険者の再編統合、4) 新たな高齢者医療制度の創設、5) 診療報酬体系の在り方の見直し、6) レセプト・オンライン化の完全実施に向け、診療報酬・薬価改定、電子レセプト請求の普及促進、健保本人の3割負担、高齢者定率1割負担、老人医療対象年齢の75歳に引き上げ、医療特区の容認、支払基金の民間法人化、審査・支払事務処理体制の見直し、公的年金制度の改革、国立病院と国立大学（付属病院）の独立行政法人化、医師・歯科医師臨床研修の義務化、中医協・社会保険庁の見直し、混合診療の解禁、「保険者との直接契約と審査・支払」の推進、介護保険制度の改正、個人情報保護法の施行、等着々と実施され、今後も医療保険制度改革（新たな高齢者医療制度の創設、保険者の再編・統合）の実施や政管健保公法人化、年金業務の新組織の設立やレセプトの完全オンライン化を予定している。

平成18年度新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会報告

同窓会専務理事 成田 秀

日時：平成18年11月19日(日) 午前9時～12時

会場：高輪東武ホテル

当番校：鹿児島大学歯学部同窓会

全歯懇開催の翌日19日(日)に全10校(北海道大、東北大、新潟大、大阪大、岡山大、広島大、徳島大、九州大、長崎大、鹿児島大)の同窓会の参加のもと、新設国立大学歯学部同窓会連絡協議(国歯協)が開催されました。新潟大学歯学部同窓会からは多和田会長と私の2名が参加しましたので、その会議の様子をご報告します。

会次第

1. 開会の辞

鹿児島大学歯学部同窓会

専務理事 佐藤 裕幸





それに対して医科（主として医師会）および歯科（主として歯科医師会）の対応には差があり、歯科の対応は視野が狭く後手後手となっておりその結果が今の診療報酬に現れている。これからは歯のみにこだわらず、口の中から体全体を診る観点が必要で、たとえば嚙下などにも積極的に取り組んでいく事が必要である。今国民は納得できる事には金を出すが納得いかない事には批判的になっている。患者の目線に立った医療を行う事が大事で、そのためには他の業種の人との交流も有効である。

5. 協議・報告

1) 在学時に同窓会活動を理解してもらう取り組みについて

同窓会に限らず組織への若い世代の無関心が憂慮されており、在学時から同窓会の存在意義や活動を理解する事で、卒業後の同窓会への関心を少しでも高められると考えられ、各大学での学生へのアプローチの取り組みの発表があった。具体的には、各大学とも学生への進路相談会・懇親会を開催しているが、他にはOB 開業医の診療室見学会（鹿児島大）、学生会員への講演会・セミナー・症例検討会への無料招待（九大、阪大）、運動会・歯学祭・SCP への援助支出、卒業生ネームプレート贈呈・掲示（新潟大）、卒業祝賀・謝恩会への出席（新潟大、徳島大）、3～5年生対象の講演会の開催・6年生への支部説明会（徳島大）、新入生への同窓会説明会（阪大、長崎大）、成績優秀者・スポーツ功労者を2名表彰（長崎大）、学部説明会時に父兄への同窓会説明会の開催（岡山大）、各学年委員との懇親会、4、5年生から学生理事を選出し理事会への出席・学生への報告（東北大）など報告があった。

2) 次回・次々回の当番校について

次 回：平成19年度 九州大学歯学部同窓会
次々回：平成20年度 北海道大学歯学部同窓会

3) 大阪大学歯学部同窓会の玉利会長が今年度

で会長を勇退されるのでその旨挨拶があった。

同窓会セミナー

「一般開業医のための『小児歯科臨床のヒント』」を受講して

34期 阿 部 俊 輔

先日、平成18年度同窓会セミナーを受講させていただきました。

学部を卒業して3年目、卒後の2年間は補綴科で研修医をしていた私にとって、小児の治療は苦手意識を拭いきれないものです。もちろん経験不足もあるかとは思いますが、しかし、何よりも勉強不足とそれゆえの知識不足が根底にあることを常々感じていました。そんな折に届いた同窓会セミナーの案内に目を通すと、「一般開業医のための『小児歯科臨床のヒント』」。迷うことなく翌日に受講申し込みを済ませました。

受講当日、久々の新潟は11月にしては珍しく快晴。まだ薄明るい早朝に埼玉から出てきた私でしたが、おかげで眠気も覚め気持ちよくセミナーに臨むことができました。

午前の部は講義および症例相談。小児期の歯の萌出障害をテーマに総論から咬合誘導、歯種別の萌出障害とその処置など、臨床に即したその講義は『ヒント』という枠を超えた、内容の濃いものでした。自身の診療を顧みると、不慣れな小児の対応に精一杯で、ついつい1歯単位の治療にとらわれがちであることに気づかされます。講義を通し、小児歯科の本来の目的である「小児の口腔領域を正常に成長発育させるために、これを障害する口腔疾患や異常を予防し治療すること」の重要性を再認識できたことは大きな収穫でした。

午後の部は実習および症例相談。咬合誘導の概念について説明を受けた後、実際に動的咬合誘導用可撤装置を製作しました。自分の手を動かすことで、装置の概念および製作・調整に対する理解を深めることができました。

小児のう蝕が減少傾向にあり、健全永久歯列の





誘導がより要求される今日、今回のセミナーで学んだことは、実際の臨床にも活かせる、また活かさなければならないものでありました。受講できたことは非常に有意義であったと感じています。

また、1日を通して、学生時代・研修医時代にお世話になった先生方とお話する機会が持てたこと、懐かしい5階学生実習室で実習を受けたことなど、同窓会セミナーならではの醍醐味もありました。今後もこのような機会があれば、セミナー半分、同窓会気分半分で参加させていただきた

いと思います。

最後になりますが、野田先生、田口先生をはじめご指導いただきました先生方、小児歯科学教室医局員の先生方、ならびに同窓会セミナー担当の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。充実したセミナーを開催していただき、ありがとうございました。

同窓会セミナーの様子





同窓会セミナー 「一般開業医のための『小児歯科臨床のヒント』」を受講して

24期 紋谷光徳

一般開業医のための「小児歯科臨床のヒント」を受講させていただきました。

開業以来小児歯科臨床に悩みつづけていた私としては、非常に興味のある研修でしたので、迷わず申し込みました。しかも咬合誘導の実習まであり、準備された先生方、同窓会の先生方には大変感謝しております。

野田先生の講義では、20～30年前は子どもの総義歯もあり、一刻を争う治療ばかりであったが、現在のむし歯は一刻を争う事はないのでいろいろなテクニックが使える、ということでありました。確かに当院に通ってくる子供たちも一刻を争うような患者はほとんど来院しません。着色くらいで心配されるお母さんも来院しますが、1歳くらいで来院されても何もできませんよね。「この気持ちをズット忘れないで欲しいな～」と思いながら対応しています（高崎は小学生に上がると途端に受診率が悪くなるんですよ）。

咬合誘導の考え方としては、「初期をたたく、ひどくしない、将来の矯正を楽に」ということでした。小学生の受診率を上げるには、咬合誘導はなくてはならないものだと考えていたので、大変参考になりました。

また、萌出障害の講義では、あまり遭遇した事のないお話が聞けて、様々な原因があることがわかりました。特に部位別に原因、処置まで丁寧に解説していただくことによって、今後の診療においてお母さん方へ自信を持って説明する事ができると思いました。

午後の実習では可撤誘導装置を作成しました。アダプスのクランプ、唇側弧線など、懐かしい単語がまたまた出てきました。慣れない手つきでクランプを曲げ、模型にあわせ、修正不可能な部分は優しいインストラクターの先生に手直していただき、なんとか完成させることができました。

また、学生時代では聞けなかった事も今では臆することなく質問でき、同窓会セミナーならではのありがたみを感じました。やはり小児歯科の先生は優しいな～と思いながら、充実した気持ちで終了する事ができ大変充実した一日でした。

最後に休日にもかかわらず、野田教授、田口先生、熱心にご指導して下さったインストラクターの先生方ありがとうございました。

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」発行開始！

新潟大学歯学部同窓会／新潟大学全学同窓会



新潟大学全学同窓会は、新潟大学の国立大学法人化を機に平成18年4月に“9つの学部同窓会”と“教職員からなる校友会”が連帯して組織されました。それによって新潟大学に過去・現在に係わりのある約10万名の方々が構成メンバーになりました。新潟大学全学同窓会では、全国の国立大学法人同窓会に先駆けて、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行することになりました。卒業生、教職員および教職員OBにはゴールドカードを年会費無料・年会費永年無料で発行します。

皆様が「新潟大学カード」に入会され、カードを利用することにより、カード会社から新潟大学全学同窓会へ提携手数料等が還元されて新潟大学を支援することができます。また、会員自身はゴールドカードとしての各種特典サービス、例えば、海外・国内旅行傷害保険最大5,000万円、シートベ





ルト保険最大1,000万円、ショッピング保険最大300万円、国内空港専用ラウンジ無料サービスなどの様々な特典、さらには、スケールメリットを活かした特典を享受できます。本人の家族であれば何人でも無料で家族会員として加入できます。

このカード事業の推進には全学同窓会副会長・多和田孝雄歯学部同窓会会長と全学同窓会運営委員会サービス部長・佐藤定雄歯学部同窓会副会長が中心的役割を果たしてこられました。そうした経緯からも歯学部として是非多くの同窓生と教職員が入会して、メインカードとしてご利用いただくようお願い申し上げます。

カード入会受付開始日 平成19年1月15日(月)

入会手順

3月下旬に歯学部同窓会事務局から新潟大学カード入会申込書、カード用ID番号およびカード

に関するQ&Aが定期郵送物と共に皆様のもとへ届けられます。歯学部同窓会に入会されていない教職員は、全学同窓会事務局で入会申込書およびカード用ID番号を入手してください。入会申込書は各自で記入してUFJニコスへ直接郵送してください。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

* 歯学部同窓会事務局（担当：相澤）

☎ 025-229-4166（木曜日13：30～17：00）

FAX 025-229-4166

alumni@dent.niigata-u.ac.jp

* 新潟大学全学同窓会事務局（担当：中野）

受付時間10：00～15：00(土、日、祝日を除く)

☎ 025-262-7891 FAX 025-262-7892

dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

（歯学部カード業務管理者 福島正義）

